



平成30年度 徳島県中学校 教育課程研究集会 外国語部会

お伝えしたいこと

1. 英語教育改革(スケジュール確認)
2. 新学習指導要領(ポイント)
3. 英語授業づくりについて
4. 全国学力調査(概要)

1. 英語教育改革(スケジュール確認)

「中学校」では2021年度から...

- ・授業は外国語で行うことが基本となります。
- ・対話的な活動や、実際に活用する言語活動を重視します

【Check!】
授業時数は変わりません。
(全学年で週4コマ程度、教科の中で最多)

「高校」では2022年度から...

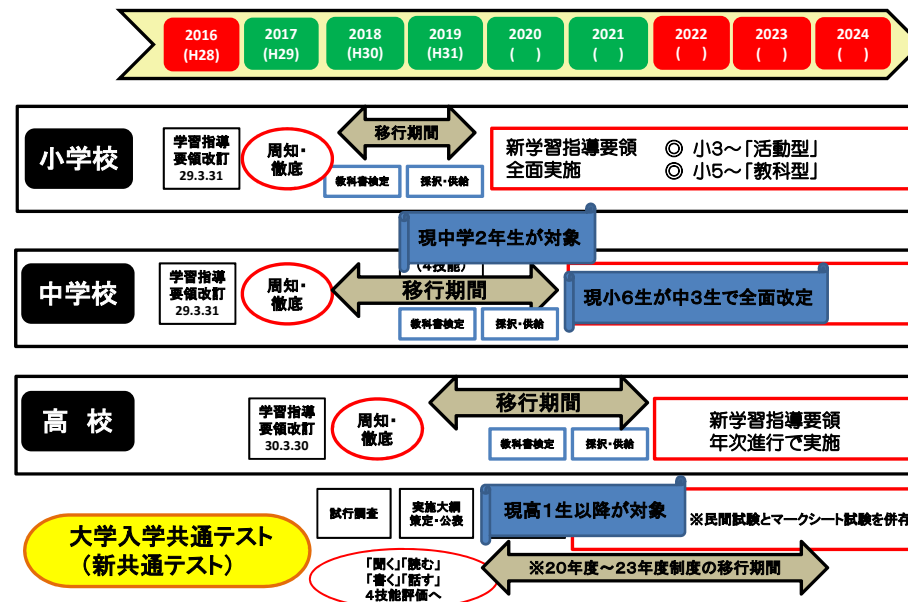
- ・「聞く」「読む」「話す(やり取り・発表)」「書く」、を総合的に学び、発信力を高めます。

「大学入試」では2020年度から...

- ・外部検定試験を活用し、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能が評価されます。



英語教育に関するスケジュール



外国語教育の抜本的強化のイメージ

現状 学年が上がるにつれて意欲に課題
学校種間の接続が不十分

改善・充実

新たな外国語教育

「何が出来るようになるか」という観点から、国際基準(CEFR※)を参考に、小・中・高等学校を通じた5つの領域別の目標を設定
(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」)

中学校

年間140単位時間(週4コマ程度)
互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な活動を重視
具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを実際に活用する言語活動を充実
授業は外国語で行うことを基本とする

改善・充実

小中連携

各中学校区の特性に応じて目的、内容、場面等テーマを絞った連携

授業参観等(互いの授業を見合う)

目標・指導内容等について、意見交換

小学校で設定する領域別の目標、扱った話題、言語材料(表現・語彙)等の一覧

中学校が設定するCAN-DOリスト
その活用

学習の進捗状況の情報
教材、子どもの作品
振り返りシート

中学校で実施するパフォーマンステストの情報等

同じ表現、繰り返し使用、同じ場面、発展的な指導、共通教材

中一ギャップ対応、授業の進め方

先生交流、児童・生徒交流、DVD交流

「外国語活動」及び「外国語」における言語活動とは

「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。

考えや気持ちを伝え合うという要素がない→×言語活動
例)発音練習、歌、英語の文字を機械的に書く→練習
練習は、言語活動を成立させるために重要！
練習だけで終わらないように留意！

単元構想 (目標と言語活動の合致)
(言語活動につながる練習・指導の有無)

小中連携の意義(必要性)

年間指導計画例
新教材・指導書
研修ガイドブック

連携・協力で
円滑な学びへ

一部または全部について
新学習指導要領の
規定によることができる

教科化への対応 ●
校内連携・小中連携



文法事項や語彙数の増加、
小・高との接続

円滑な移行のために
連携に基づいた計画的な指導

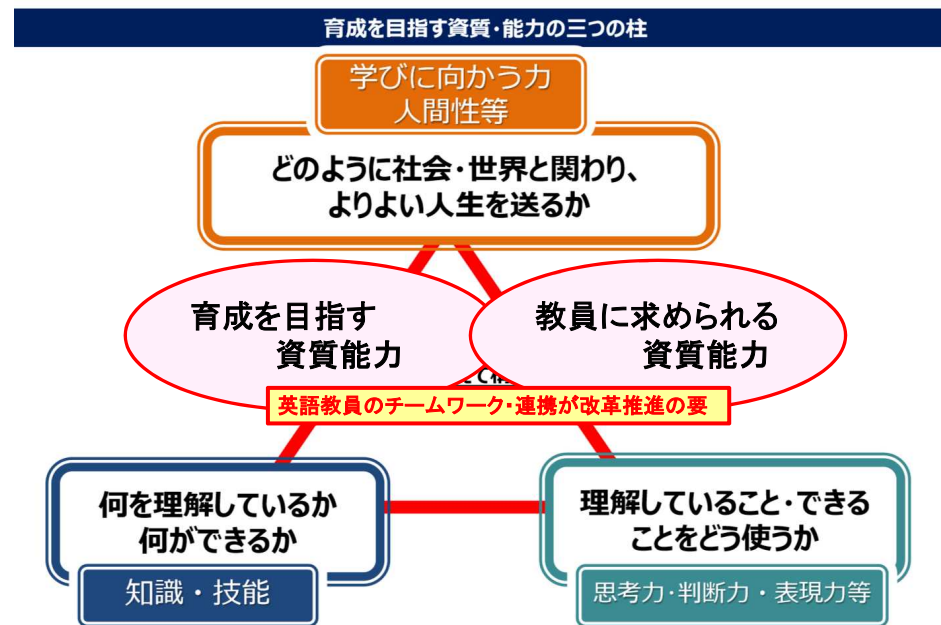


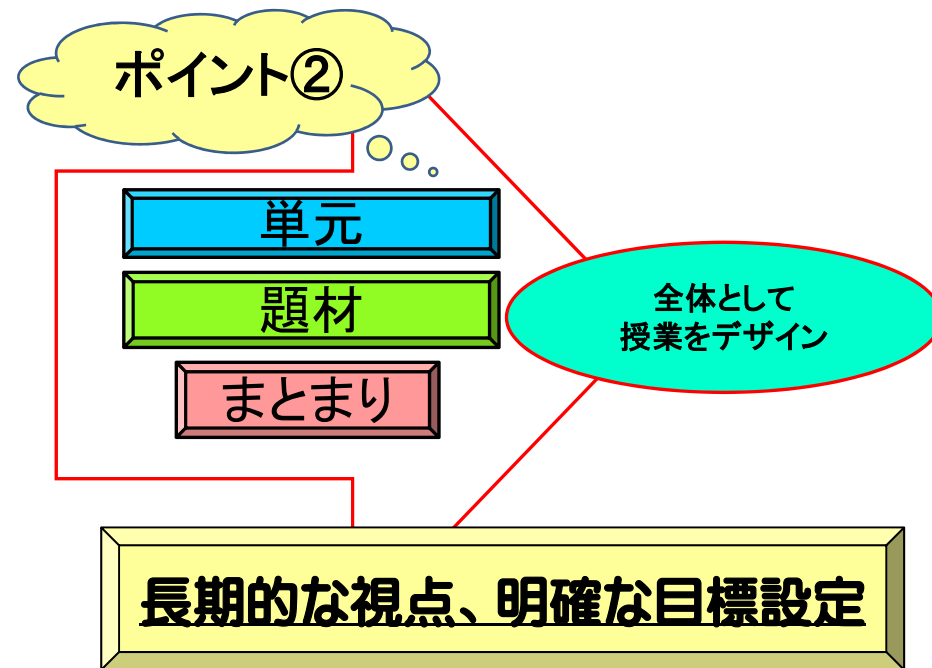
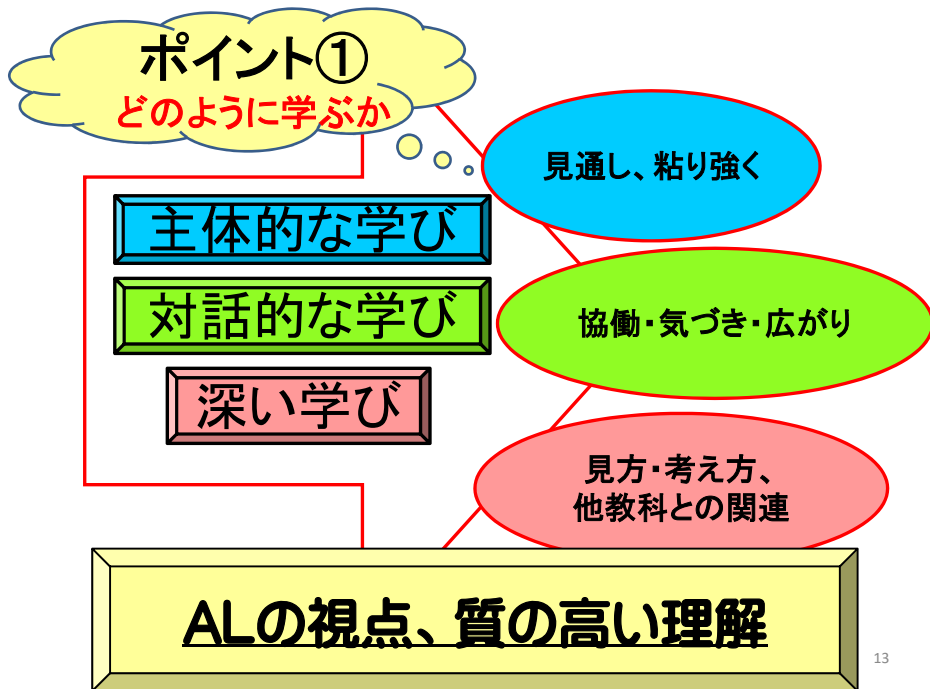
Index Contents

Aizome, "Indigo Dye"	4
Ningyo Joruri	6
Awa Odori, "Awa Dance"	8
Daiku, "The Ninth Symphony"	10
Sudachi, "Citrus Fruit"	12
Kazura-bashi Bridge	14
Umigame, "Sea Turtle"	16
Awa-ben, "Awa Dialect"	18

発信型
英語学習

2. 新学習指導要領ポイント





3. 英語授業づくりについて (指導改善のポイント)



新たな外国語教育

「何ができるようになるか」という観点から、国際基準(CEFR※)を参考に、小・中・高等学校を通じた5つの領域別の目標を設定

英語力調査や英語教育実施状況から見てきた指導改善のポイント

- | | |
|-------------------|---------------------------------------|
| ①「聞くこと」 | ①「ALT等との対話」「全体の概要把握」「必要な情報」 |
| ②「読むこと」 | ②「教科書以外の文も読む」「時間を決めて多読」 |
| ③「話すこと
(やり取り)」 | ③「様々な人とやりとり」
「実際のコミュニケーションを意識」 |
| ④「話すこと
(発表)」 | ④「即興で話す力の育成を意識した活動」
「伝える相手や伝え方を意識」 |
| ⑤「書くこと」 | ⑤「伝えたいことを書く活動」「条件付きの英作文」 |



技能を統合した授業実践

5.全国学力調査

1) 予備調査概要

2) 実施に向けて



全国学力調査「英語4技能テスト」

2019年度

対象: 中学3年生 内容: 4技能5領域
「聞く」「読む」「書く」の3技能を45分程度
「話す」を10分程度

平成30年度に調査設計・予備調査

全国予備調査(H30.5.1～5.31)
5月末に内容等公表

予備調査に関して

国立教育政策研究所

<http://www.nier.go.jp/index.html>

新着情報

平成30年 5月31日

更新情報 平成30年度全国学力・学習状況調査

【英語予備調査】の調査問題・正答例を掲載しました。

http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/kannren_chousa/eigo_yobichousa.html

定期考査の改善

互いのテストを4技能育成・評価改善の視点で

- 暗記で処理できる問題となっていないか
- 技能統合型の出題
- 育成したい技能が測られているか
- 初見の題材を活用しているか
- 内容重視
- 指導と評価の一体化となっているか

まとめ

1. 英語教育改革(スケジュール、生徒目線に対応)
2. 新学習指導要領(思考・判断・表現→深い学び)
3. 英語授業づくりについて
4. 全国学力調査(概要)

「話すこと」の実施に注目が集まりますが、予備調査問題を参考¹⁾に定期テストを改善し、4技能バランスのよい育成を！

英語教育改革の渦中にいる生徒たちの必要な学びが保証されますように4技能育成を意識した指導と評価を繰り返し授業改善に取り組んでいきましょう。

